

## デザイン工学部

### I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

改善すべき主な指摘条項は以下の2つと判断した。

<指摘事項1>過去一年間PDCAによる質保証活動をせず一年横滑りさせたかのように見受けられる。今後、教員集団の組織的かつ積極的な自己点検・評価への取り組みが必要と思われる。

<対応>ここでなされている設問に対して毎回異なる回答（点検結果）を示すことは、教育・運営方針の一貫性という意味では、難しいように感じられるものもある。その他については新たな試みをできるだけ記入する。また、多くの試みを行っているが、その記録が十分でないとも考えられるため、記録の充実を図る。

<指摘事項2>施設面の不足の問題が自己点検書類の中で数年来提起されているが、これは法人の大学全体の財政運営の中で検討されるべき案件であり、大学評価委員会はその是非について判断を下す立場にないので、法人への適切な申請がなされることが望まれる。自己点検・評価においては、与えられた資源の中でいかに工夫して現状を改善するかという観点からの活動により努めていただきたい。

<対応>大学院スペースも含めて前施設担当理事と話し合う場を設けていただいたが、進捗はなかった。今後、現スペースの利用状況を正確に把握し、その有効利用を図るとともに、正式に法人に要望書を提出する準備を進める。

### II 現状分析

#### 1 理念・目的

1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

以下のように設定している。

<デザイン工学部>

横断的な知識の融合により、多面的な観点から物事を検討し、公正な価値観を持った、創造性豊かな人材の育成を学習・教育目標としている。学部は、建築学科、都市環境デザイン工学科とシステムデザイン学科からなるが、いずれの学科とも、より人間的側面を重視し、新しいモノやコト、システムを創造する「総合デザイン」という理念を有している。

<建築学科>

学習・教育目標の書かれた小冊子（全66頁）を作成し、学生全員に配布している。そのなかで、以下のように記述している。われわれの設定した、いわゆる「アーキテクトマインド」をいかに理解し、その素養を実現するかに重点を置き、次の7項目、すなわち、(1)総合デザイン力、(2)文化性、(3)倫理観、(4)建築の公理、(5)芸術性、(6)教養力、(7)表現力のそれぞれを視野に入れながら、知識と感性の総体によって創出される真の建築学を身につけた人材の育成を教育目標としている。

<都市環境デザイン工学科>

社会基盤の整備には、地球規模の環境保全、自然環境と共生できる都市づくり、循環型社会の構築など、多面的な課題対応が求められている。したがって、私たち技術者は、社会基盤の整備が人々の生活の利便性や経済活動の活性化に果たすプラスの役割と、自然環境を損なうようなマイナスの作用を正確に把握し、工学的な判断をする必要がある。都市環境デザイン工学科では、法政大学の校風である「自由と進歩」「進取の気象」を踏まえ、グローバルな視点に立った工学教育を行うことにより、専門技術を活かし問題を解決する能力を身に付け、社会との対話と説明責任の遂行が可能な人材の育成を目指している。

<システムデザイン学科>

従来のアナリシス主体の細分化、専門化した縦割り教育とは異なり、幅広い知識と個別技術を組み合わせながら、人間中心にシステムをデザインする、シンセシス能力を身に付けた人材の育成を目指す。そのため、人間中心の美的・機能的デザインを基本に、横断的な知識の融合と豊富な実習体験を通して、コンセプトプランニングからプロダクションマネジメントまで、「新しい価値を備えたシステムを創造しデザインする工学」を総合的に学修する。

1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように理念・目的を周知・公表していますか。

<デザイン工学部>

「履修の手引き」に「デザイン工学部の理念・目的・教育目標」を掲載し、学生・教員全員に配布し、周知を図っている。また、学部ホームページでその内容を公開している。さらに学部建物内の講師室内など数か所に「学部の理念」を掲示している。

<建築学科>

1.1で示した小冊子に理念・目標を明記し、教員と学生に配布している。学生にはガイダンスを通じて周知しているが、それに加えて1年生には、必修授業である「導入ゼミナール」において、詳細を解説している。また、同内容は学科ホームページを通じて公表している。

<都市環境デザイン工学科>

1.1で示した理念・目的を履修の手引き及び学内の掲示板に公表することで大学構成員に周知するとともに、本学科のホームページにも掲載し、社会に公表している

<システムデザイン学科>

1.1で示した理念・目的を学科のホームページに掲載し、公表するとともに、履修の手引きにも掲載し、これを配布して学生に周知している。

1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

<建築学科>

JABEE（日本技術者教育認定機構）による外部評価を受けている。学科内にJABEE運営委員会とそれに連携する外部評価委員会（年1回開催）を設置し、理念・目的の適切性を定期的に検証している。JABEE運営委員会の活動と外部評価委員会による評価を資料とし、教室会議において関連事項の審議・検証を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

学習・教育到達目標WGを設置し理念・目的が社会情勢の変化に伴って適切なものとなっているかを検証するとともに、最低1年に1回は教室会議において報告を行い、拡大教室会議においてその妥当性について審議している。

2004年度からJABEEの認定を受け、継続的に受審することにより、理念・目的の適切性を検証している。

<システムデザイン学科>

2012年度から各学科から選出された質保証委員会を発足し、年4回の質保証委員会を開催し、理念・目的の適切性を学科相互に検証している。また、年度末に学科の教室会議において、理念と目的の適切性の検証を行い、その後に開催される専任教員と外部講師とのカリキュラム打ち合わせ会において、全員で意見交換を行っている。

## 2 教員・教員組織

2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしていますか。具体的に説明してください。

<デザイン工学部>

学位授与方針やカリキュラムと関連する教員像を履修の手引き、ホームページ、大学案内を通じて学外へ公表するとともに、学内で周知される仕組みとしている。また、履修の手引きにおいて、教員の専門分野、担当授業に対する方針・姿勢を示している。

②大学院教育との連携を図っていますか。

<建築学科>

1.1で述べた『「アーキテクトマインド」について学ぶ』ことを学部と大学院に共通する理念・目的としている。また、大学院においては、『「アーキテクトマインド」を習得する』と題したより発展的な理念・目的を掲げ、学部教育との連携を図っている。学部担当全教員が大学院教育も担当し、常に連携を図った教育体制を備えている。

<都市環境デザイン工学科>

学部教員の全てが大学院も担当しており、常に連携した教育実施体制にある。学部教育と大学院教育との連携強化のため、学部生に対する大学院進学後の情報提供や進学指導を行っている。

<システムデザイン学科>

3年生春学期からプレゼミとして「ゼミナール1」という科目を設置し、4人の教員の専門分野に必要な基礎的知識を学び、秋学期から各研究室へ配属され、「ゼミナール2」でより深く基礎的な知識を深めた上で、4年生において「卒業研究・卒業制作1・2」を行っている。これにより、学生は、大学院における教育の基礎的理解と研究の方向性について比較的早い段階から教員の専門分野を把握している。また、学部教育の3つの系（クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系）が大学院の専門3分野に展開され、全教員がいずれかの分野に所属して大学院教育を担当することで連携を図っている。

③採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにして

いますか。

<デザイン工学部>

採用・昇格に関する規定「デザイン工学部教員適格審査内規（D工規定 006号）」と「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規（D工規定 008号）」に教員の資格要件を示している。公募採用に際しては、資格要件を学会・業界などに公表し、教員が満たすべき能力・資質と求める専門性を具体的に明らかにしている。

④組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。その体制について概要を説明してください。

<デザイン工学部>

学部長・主任・副主任と各学科主任から構成される「運営委員会」において、デザイン工学部内の役割分担と責任の所在について、確認し、明確にしている。

<建築学科>

教室会議にて、必要な役割分担、責任の所在を明確にするとともに、責任者、担当者を任命している。各責任者、担当者は、教室会議において、随時、報告を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

教育プログラムの責任者（プログラム責任者）を設け、その役割と責任を学科内規定で明確にしている。さらに、教育プログラムの計画・実行・点検・改善の基幹となる学習・教育到達目標 WG、教育内容 WG、教育環境 WG 及び教育改善 WG とこれをサポートする広報・資料 WG 及び卒業生連携 WG を組織し、それらの役割も学科内規定に明示している。それぞれの WG が分担する事項の計画・実行・点検・改善案を作成し、その内容を教室会議や拡大教室会議で報告・審議している。

<システムデザイン学科>

低学年から複数の教員が関わる実習や、全専任教員が関わる PBL 型授業を多く配置している。これらの授業を中心に、教室会議等において、授業の運営に関わる役割分担や責任の所在を常に明確にしながら、改善すべき点を随時議論し、教育の向上を図っている。また、各学年に学年担当教員と 1 年次にはクラス担当教員（およそ学生 10 名に 1 名の専任教員）を配置し、学科主任と協力しながら講義等の運営に責任を持つ体制を整えている。

2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。また、なぜそのように判断しましたか。

<建築学科>

学科のカリキュラムを構成する「建築デザイン」、「建築・都市史」、「建築環境」、「建築構造」、「建築構法・施工」の 5 分野にバランス良く専任教員を配置している。専任教員は、それぞれの分野の先端的な研究能力を有すると同時に、分野間を相互に横断し、カリキュラム全体を把握できる人材としている。

<都市環境デザイン工学科>

専門の学問分野を 3 つに区分して各系 3 名以上 10 名で構成することを想定しており、現在、都市プランニング系 4 名、環境システム系 3 名、施設デザイン系 3 名である。現在の 10 名の教授・准教授のうち 9 名は博士の学位を、4 名は技術士の資格を有している。兼任講師には担当の専任教員を設けるとともに 1 年に 1 回講師懇談会を実施し、教育目標の達成のための連携を図っている。

現在の専任教員 10 名に加えて、次代の学科の中心的となる教員の育成を目指し、2 名程度任期付き助教が必要と判断している。また、本学科を定年等で退職した教員あるいは他大学や他研究機関で活躍されている教育・研究実績が豊富な方を任期付き教員として採用することにより、より円滑な教育プログラム運営や活発な研究活動、社会活動が実現できると考えている。しかし、法人としての考えもあり、その実現への進捗はない。

<システムデザイン学科>

クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系の 3 分野が有機的に結合したカリキュラムで、モノづくりのプロセスを実践的・体系的に学修させるため、各系の専任教員を少なくとも 3 名以上配置し、各系との横断的なつながりを常に意識して授業を運営している。また、各系に精通した教育技術員（職員）を配置し、教員の実習教育を支援する仕組みとしている。

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

<デザイン工学部>

適切な年齢構成を目指すことは、教授会での合意事項であり、新任教員採用の際に考慮している。現在の各学科の状況は以下の通りである。

<建築学科>

60 歳代：6 名、50 歳代：3 名、40 歳代：4 名、30 歳代：1 名、20 歳代：1 名である。女性教員は 1 名である。

<都市環境デザイン工学科>

<p>60歳代：4名、50歳代：3名、40歳代：2名、30歳代：1名である。女性教員は1名である。</p> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <p>60歳代：5名、50歳代：4名、40歳代：1名である。現在のところ、50～60歳代の教員比率が高く、女性教員は含まれていない。今後の検討課題である。</p>
<p>2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。</p> <p><u>①各種規程は整備されていますか。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>採用・昇格に関する規定として「デザイン工学部教員適格審査内規（D工規定006号）」と「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規（D工規定008号）」を、規定の運用に当たっては「デザイン工学部人事委員会構成・運営細則（D工規定007号）」を整備している。</p> <p><u>②規程の運用は適切に行われていますか。規程に沿った募集・任免・昇格のプロセスを説明してください。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>規定の運用は適切に行われている。具体的なプロセスは以下のとおりである。推薦あるいは公募により各学科から教員の採用あるいは昇格が教授会に提案され、教授会において人事委員会付託するか否かを決定する。人事委員会での審議の結果が教授会で報告され、教授会において審議されたのち、投票により採用・昇任の是非が決定される。</p>
<p>2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。</p> <p><u>①学部（学科）等内のFD活動はどのように行なわれていますか。具体的に説明してください。</u></p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <p>JABEE運営委員会委員がJABEE開催の研修会に参加し、教室会議にて報告および周知を行っている。「デザインスタジオ」等のスタジオ（演習）科目について、毎年度末にスタジオ連絡会議を開催し、兼任講師を交えてスタジオ間の意見交換や教育内容・方法等の改善を検討し、実施している。</p> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <p>学科内に設けた教育改善WGによる改善案を教室会議、拡大教室会議での審議を経て実行に移している。さらに、教育評議委員会等で検証を行うとともに、土木学会で開催されるJABEE研修会にも、教員と事務職員が積極的に参加している。また、教員各自がFD活動を実施した際、あるいはFD推進を目的としたイベント等に参加した際にFD活動報告書の提出する仕組みとしている。さらに、授業改善に役立てることを目的として授業のビデオ撮影を行い、教員自身の話し方、板書の仕方などを自己点検する仕組みを設けている。このビデオは全教員が閲覧可能であり、授業改善に利用している。</p> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <p>学科の全専任教員と教育技術員が参加する教室会議において、講義の実施状況や内容、スケジュール管理や課題などを議論し、その結果を次年度の授業実施に反映させている。年度末には、外部の兼任講師を含む学科の教育を担当する全教員と教育技術員が学科カリキュラム打ち合わせ会を開催し、各講義の課題を確認し、次年度の対応について全員で意見交換している。</p>
<p><b>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</b></p>
<p>3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。</p> <p><u>①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>各学科で以下のように習得すべき学習成果と学位授与方針を定めている。卒業要件も各学科で定めており、具体的内容は履修の手引きに掲載している。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <p>学士（工学）の学位授与にあたり、以下の事項を重視している。グローバルに持続可能な環境を見すえた倫理観をもち、技術や実用性に加え広義の美しいデザインを成し、人に感動を与えるものをめざす。そのためには、表現能力、コミュニケーション能力を獲得していなければならない。人間の安心、安全、快適を保障する最低限の基盤となる建築知識・技術は、建築分野に課せられた建築素養（資格要項を含む）のためには不可欠である。卒業研究・卒業設計は、4年間の集大成としてゼミナールに所属し、より深い専門性を持ち広い視野から問題設定と論究を成し発表、提言を行う。そして総合的（ホーリスティック）な判断のできる学生として建築デザインをまとめる。さらに、建築を学ぶものとして社会的倫理観を持ち、バランス感覚のとれた、真に「アーキテクトマインド」を獲得する。</p> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <p>社会との対話と説明責任の遂行が可能な人材を育成すべく、学士（工学）の学位授与にあたり以下のような能力を重視し</p>

ている。

- ・地域の歴史・文化を尊重し、自然環境と共生する社会基盤の整備に貢献できる能力および技術者倫理を備えた技術者
- ・自然・人文社会・情報科学等の基礎学力・都市・地域システムを計画・設計・施工・維持管理・評価する上で必要な専門基礎学力および実際問題に活用できる能力およびコミュニケーション能力
- ・自然環境と人工環境の融和を目指した持続可能な地域社会の形成に必要な社会基盤施設を計画すると共に個々の施設をデザインする創造的な能力
- ・目的意識を持って自己スキルアップを継続的・積極的に進める意欲とさまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で、計画的にチームで業務を遂行する能力

<システムデザイン学科>

従来の工学基礎の教育に軸足を置きながら、それらを基盤として他の分野との知識の融合による「新しい価値ともの・システムを創造しデザインする工学」として、様々な技術分野を統合した新たな学問体系を修得する。これは、従来のアナリシス主体の細分化、専門化した大学専門教育とは大きく異なり、個別技術や幅広い知識を組み合わせながら、人間中心にシステムをデザインする、いわゆるシンセシス能力を身に付けた人材を育成することを目指している。本学科では、環境・健康・福祉・公共の安全を理解し、国際的な視野に立って判断のできる総合システムデザイン能力の素養を十分に身に付けた学生に学位を授与し、社会に送り出すことを目的としている。

### 3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

<建築学科>

専門科目では、高度な数学的手法や実験、シミュレーション等を行うが、その導入としての専門基礎科目（物理・数学等）は、専門科目との関係が理解しやすいように専任教員が担当している。専門課程では、学科を構成する「計画・歴史」、「構造・構法」、「環境・設備」の各分野が工学的な知識・理論を基盤に「芸術的な素養」を加えて有機的に結びついている。さらに、各分野を総合的に把握できる能力を獲得するために、横断的なプログラムを構成している。実際に町や村に出て調査を行う「フィールド・サーベイ」、国際的な感覚、異文化理解のために国内外の調査・研究に参加する「プロジェクト学習」、プロフェッショナルに学ぶ「インターンシップ」など、実践を重視した学習プログラムが多く設けている。1年から4年次まで通して配置した「デザインスタジオ1～7」では、少人数教育の実現により、個性の発見、伸長が図られている。

<都市環境デザイン工学科>

カリキュラムの作成に当たり、以下の目標を掲げている。なお、必修科目の多くをクラス分けによる少人数教育で実施している。

- ・入学から卒業までの全教育期間を自然科学系基礎教育（工学基礎）、共通専門基礎教育（専門基礎）、専門応用教育の3段階に分け、それぞれを相互に連携・融合させている。
- ・工学基礎では、自然科学分野のうちの数学、物理学関連科目を専門教育に必要な基礎的素養を身につけるためのより実践的な教育を学科教員が実施する。
- ・専門基礎は、専門科目の枠組みを外し、科目相互で連携することによる、講義内容の過度な科目間重複の解消、適切な講義計画の遂行。国際的なコミュニケーション能力に不可欠な工学英語を学科独自の教育プログラムとして配置している。
- ・専門応用では、都市プランニング系、環境システム系、施設デザイン系の専門科目群として構成。これにより、さまざまな専門分野を有機的に活用できる系としての教育を実施している。

<システムデザイン学科>

工学やシステムデザインの基礎的な知識・技能から各系の専門的な理論や手法、さらにそれらを総合的に応用する能力までを、講義科目だけでなく豊富な演習・実習科目を通して、学年が上がるにつれて順次修得できるよう教育内容を定めている。

その内容については、製品企画から設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習する科目である「プロジェクト実習・制作2」と、本格的な製品企画を行う「フィールドワーク」とその企画を実際の形にする「応用プロジェクト研究」を開講している。また、より高度な専門的内容を扱う「卒業研究・卒業制作1・2」を学科の集大成科目と位置づけ、これらを実施するうえで必要となる知識・能力を網羅するように定められている。以上のように、適切な教育課程が設定されている。

### 3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

<建築学科>

教育目標の詳細は、1.1で述べた小冊子および学科ホームページにより、周知・公表している。教育目標の概要と学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、履修の手引きに記載し、周知している。学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、大学ホームページを通じて公表するとともに、常時、校内に掲示もしている。

<都市環境デザイン工学科>

1.1で示した理念・目的を履修の手引き、本学科のホームページ、学内の掲示板にて公表している。また、個々の講義の教育目標については、シラバスに明示するとともに授業内で説明を行い、学生に周知している。

<システムデザイン学科>

大学ホームページに掲載し、公表している。個々の講義の教育目標については、シラバスに明示するとともに授業内で説明を行い、学生に周知している。

3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

<デザイン工学部>

各学科から選出された委員からなる質保証委員会を2012年度に立ち上げ、年4回の当委員会において、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を学科相互に検証している。

<建築学科>

JABEE（日本技術者教育認定機構）による外部評価を受けている。学科内にJABEE運営委員会とそれに連携する外部評価委員会（年1回開催）を設置し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を定期的に検証している。JABEE運営委員会の活動と外部評価委員会による評価を資料とし、教室会議において関連事項の審議・検証を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

教育目標、学位授与方針について、学科内に設けた学習・教育到達目標WGにおいて目的が社会情勢の変化に伴って適切なものとなっているかを検証し、教育課程の編成・実施方針については、教育内容WGにおいてその適切性の検証を行っている。さらに、各WGは最低1年に1回は教室会議において報告・審議を行い、拡大教室会議において妥当性について審議を行っている。さらに、3年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、標記事項の適正性についての評価を受けている。

<システムデザイン学科>

年度末に外部の兼任講師を含む授業担当者全員によるカリキュラム打ち合わせ会を開催し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を検証・確認している。

#### 4 教育課程・教育内容

4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。

<建築学科>

1年次には、基盤科目他、「導入ゼミナール」や「建築入門」などの学科基礎科目を中心に配置している。2年次には、学部共通の学部科目と専門基礎科目を配置している。専門性の高い科目は3年次以上に配置している。また、一貫したデザイン教育として、1年次から4年次まで連続する「デザインスタジオ1～7」を設置し、学年に応じた段階的な演習を実施している。また、分野別の履修モデルを履修の手引きに掲載し、カリキュラムの順次性と体系性を学生へ開示している。

<都市環境デザイン工学科>

カリキュラムの作成に当たり、①入学から卒業までの全教育期間を自然科学系基礎教育（工学基礎）、共通専門基礎教育（専門基礎）、専門応用教育の3段階に分け、それぞれを相互に連携・融合させている。②工学基礎では、自然科学分野のうちの数学、物理学関連科目については、専門教育を前提とした基礎的素養を身につけるため、学科教員が実施する。③専門基礎は、専門科目の枠組みを外し、科目相互で連携することによる、講義内容の過度な科目間重複の解消、適切な講義計画の遂行を図っている。また、国際的なコミュニケーション能力に不可欠な工学英語を学科独自の教育プログラムとして配置している。④専門応用では、都市プランニング系、環境システム系、施設デザイン系の専門科目群として構成している。系別の履修の流れを履修の手引きに示し、カリキュラムの順次性・体系性を確保している。

<システムデザイン学科>

工学やシステムデザインの基礎的な知識・技能から各系の専門的な理論や手法、さらにそれらを総合的に応用する能力までを、講義科目だけでなく豊富な演習・実習科目を通して、学年が上がるにつれて順次習得できるよう教育内容を定めることにより、カリキュラムの順次性・体系性を確保している。また、「ものづくり」を総合的に学ぶ「システムデザイン」という学問分野は新しく、時代の要請とともに教育内容を見直す必要性についても理解しており、教室会議において、授業内容やカリキュラムの見直しと改善を定期的に行なっている。

②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

<デザイン工学部>

学部開設当初の考え方にに基づき、以下のように教育課程を編成している。

- ・教養教育と専門教育に関する従来の区分的な考え方を改め、高校を卒業した後の初年度から高度な専門性を獲得して卒業する最終年に至る過程で両分野を融合的かつ相補的に学習できるようカリキュラムと教員体制としている。
- ・教養教育は文化歴史に対する深い理解を促し、物事を進める上で幅広く総合的に考える力を涵養すると共に、社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛えるものとして捉える。

以上の考え方からデザインと工学を一体的に捉えた高度な職能意識を育むべく創案されたデザイン工学部の基本コンセプト「総合デザイン」の一翼を担うものとして教養教育は展開されている。具体的には以下の施策となって実現している。

- ・自然科学系の教養科目には教養教員は配置せず専門教員を当てる。これにより後に学ぶ専門教育への導入を容易にし、教養科目の修得が専門科目の理解にどのように繋がっているかを常に意識させながら授業が進められている。これは理工系の大学では例を見ない初の試みである。
- ・外国語教育は英語とそれ以外の中国語・イタリア語系に分けられている。英語は、従来の教養的な内容と異なり、プレイスメントテストによる習熟度別クラス編成を基礎に TOEFL を熟達度の指標とする徹底的な実践・実務型の教科に変更され、その任に相応しい外部の専門教育組織に委託されている。その一方で、中国語・イタリア語系は語学教育にベースを置きつつも、むしろ異文化理解を目指した教科として捉えられている。
- ・初年度はプレイスメントテストに始まり、続く導入ゼミナール、専門の入門的教科、リメディアル数学・物理、ロジカルライティング、全学生に対する貸与パソコンとその活用を基礎にした豊富な教養関連カリキュラムが組み込まれている。
- ・その他の哲学、文学、経済、法学などに関する教養科目は従来の紋切り型の教科科目を変更し、デザインと工学の実践的側面を補うものとして学生が意識的に興味を抱けるよう認知科学、知的財産権、都市文化論等、目的別で多彩な科目群を用意し、学年を超えて担当している

4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のために、どのような教育内容を提供していますか。教育課程・教育内容の特徴を説明してください。

<建築学科>

2013年度に、JABEE（日本技術者教育認定機構）により、学士課程(学部)と修士課程(大学院)の2つの教育プログラムの認定を得ている。2つの教育プログラムの同時認定は、UIA（国際建築家連合）の提唱する建築家教育基準の認定も兼ねるものであり、国際水準にふさわしい学士課程・修士課程の教育内容となっている。

<都市環境デザイン工学科>

4.1①で示したように、全教育期間を自然科学系基礎教育（工学基礎）、共通専門基礎教育（専門基礎）、専門応用教育の3段階に分けている。

工学基礎では、自然科学分野のうちの数学、物理学関連科目については、専門教育を前提とした基礎的素養を習得する。

専門基礎では、都市環境デザイン分野での根幹を成す専門科目の基礎力を、講義だけではなく演習等を行うことにより養成する。また、国際的なコミュニケーション能力に不可欠な工学英語を学科独自の教育プログラムとして配置している。

専門応用では、都市プランニング系、環境システム系、施設デザイン系の専門科目群として構成し、さまざまな専門分野を有機的に活用できる系としての教育を実施している。

学習・教育目標を設定し、シラバスに各学習・教育目標のウエイトを記載しており、学生一人一人の学習効果などを確実に把握するために学生の達成度評価システムを設けている。

当学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構により認められており、社会が求める学士課程にふさわしいものとなっていると判断できる。

<システムデザイン学科>

1年次に工学やシステムデザインの基盤を、2年次にはシステムデザインの3つの系（クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系）それぞれの基礎理論と手法を主に学ぶ。3年次は特に興味を持った系についてより専門的な内容を学習するとともに、社会に適用可能な技術や手法をプロジェクト科目によって横断的かつ実践的に学ぶ。4年次は、卒業研究・卒業制作を通して、専門性の高い知識や技術を習得し、新たなアイデアや手法などを提案し、その成果を論文や作品としてまとめる。このように、基礎的な教養から専門的で高度な知識までを、段階的に学習できる教育課程・教育内容となっている。

②初年次教育、キャリア教育はどのように展開されていますか。

<建築学科>

初年次教育として、少人数ゼミ形式の「導入ゼミナール」を設置し、学習の動機付けを促している。また、「建築入門」により、専門分野の理解を促している。さらに、演習科目である「デザインスタジオ1～2」および「造形スタジオ」により、

建築デザインの基礎を習得させている。キャリア教育としては、ほとんどの専門科目を建築士資格指定科目と対応づけている。また、3年次に「インターンシップ」を配置し、実務を体験しながら、建築分野のさまざまな職能を理解できるようにしている。

＜都市環境デザイン工学科＞

初年次教育として導入ゼミナールを開講し、現地見学や情報リテラシー教育を実施し、学生の動機づけを行うとともに、少人数の担任制により学生が気軽に相談しやすいようにしている。キャリア教育については、導入ゼミナール（1年A期）とゼミナール（3年CD期）において、各分野に進んだ卒業生の経験談や業界の紹介を行うことにより、各学生が各自のキャリア形成について考える機会を提供している。3年次には選択科目としてインターンシップを配している。また、学内教員による公務員就職のためのガイダンスや企業説明会を実施し、学生に各職種の理解を深めさせている。さらに就職担当教員を配し、十分な知見を持ったキャリア形成の相談が行える体制としている。

＜システムデザイン学科＞

初年次教育として導入ゼミナールを配置し、1年次の早い時期に、大学での学び方やレポートの書き方等を学ぶとともに、グループワークやプレゼンテーションを実践することができるようにしている。また、社会の現状に目を向けて問題点を掘り下げ、そこから新たなシステムを提案するフィールドワーク方式の授業を導入ゼミナールに取り入れ、高学年次で専門的に学習する価値提案型のシステムデザインを初年次から体験的に学習できるようにしており、その中で企業や社会との関わりを通したキャリア形成を育むことができるようにしている。この他、システムデザイン入門の授業の一環として、実務で活躍する社会人による特別講演会を開催し、システムデザイン分野の知識や技術がどのように社会で活用されているのかを知る機会を提供している。また、3年次には選択科目としてインターンシップを配置している。

③学生の国際性を涵養するためにどのような教育内容を提供していますか。

＜デザイン工学部＞

1年生開講科目である英語1、2、3、4では、能力別クラス分けを行っている。初級レベルクラスではTOEFL-ITPスコア450点以上・英検準2級・TOEICスコア500点取得、中級レベルクラスではTOEFL-ITPスコア500点以上・英検2級・TOEICスコア600点取得を目標としている。TOEFL-ITPスコアが550点以上であれば、前記科目の評価を「A+」とする仕組みとしている。さらに、これらの科目の習熟度を明らかにする目的で、科目受講後にもTOEFL-ITP試験を受ける仕組みとし、入学時に行った試験結果と比較している。いずれの年度においても、大幅に取得点が向上している。

＜建築学科＞

2年次に、外国人教員が担当する科目として「建築のデザイン」、「特別講義（ヨーロッパの木造建築概要）」、「特別講義（伝統木造建築各論）」を設置している。3年次は「デザインスタジオ5～6」に外国人教員による英語での設計教育を導入している。大学院の「海外交流プログラム」と連動して、学部生も対象とした「国際ワークショップ」も開催している。

＜都市環境デザイン工学科＞

基礎科目として、「開発と国際協力」を設置し、海外で活躍されている技術者を兼任講師として招き、最新の海外事情や、プレゼンテーションの仕方などが学べるようにしている。また、学科独自で2年次に工業英語、3年次に工業英語実習の科目を設けて、実践に役立つための英語教育を行っている。また、工業英語では試験科目として工業英検3級、4級を取り入れている。

＜システムデザイン学科＞

理工系学部で唯一、グローバル人材育成事業の一環として全学的に導入の検討が進められている英語強化プログラム（ERP:English Reinforcement Project）のコースを設置している。さらに、英語表現技術（学部科目）を主催している。

**5 教育方法**

5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導をどのように行っていますか。

＜建築学科＞

各学年において入学時および進学時にガイダンスを行い、体系的な履修を行うよう指導している。特に入学時には、「導入ゼミナール」により少人数のゼミの中でも指導を行っている。建築学科のカリキュラムには、建築士等の資格認定のための科目が組み込まれているため、履修計画が複雑になる。資格認定のための科目を履修の手引きに明記する他、「CARESS（履修支援システム）」というシミュレーションプログラムを学生に提供し、1年度に履修できる単位数の上限（49単位）のチェック、進級・卒業要件ならびに建築士資格の取得要件を満たす科目履修のシミュレーションが容易に行えるようにしている。

＜都市環境デザイン工学科＞

入学時のガイダンス及び導入ゼミナールにおいて詳細な説明を行い履修指導している。また、各学年においても進級時にガイダンスを行い、系統的な履修を行うよう指導している。技術士補、土木施工管理技士、建築士、測量士・測量士補などの資格取得あるいは受験までの経験年数の軽減に必要な指定科目については、ガイダンス時の指導を行うとともに、達成度

評価システムに組み込まれた資格取得要件判定機能により、個々の学生の履修状況に応じた確認を行い、次期履修計画に反映させるように指導している。

＜システムデザイン学科＞

教育の目的や理念、カリキュラム構成、履修上の注意などを履修の手引きに明記しており、これに基づいて、初年次ガイダンスや少人数クラスで実施している導入ゼミナールの授業において履修指導を行っている。さらに 2013 年度からは、学生が自身の志望や適性を踏まえた履修計画を自身で立案できるよう支援するため、建築学科で導入済みの履修支援システムをシステムデザイン学科向けにカスタマイズして新入生に提供している。また、SSI コースの学生については、他の一般の学生とカリキュラムが異なるため、履修登録時に別途時間割を確認しながら指導を行っている。

②学生の学習指導をどのように行っていますか。

＜建築学科＞

シラバスに必要事項を明記している。1 年次の「導入ゼミナール」においても学習方法を指導している。また、学生が気軽に質問や相談ができるように全教員がオフィスアワーを設定している。オフィスアワーのスケジュールは、履修の手引きおよび各教員室の扉に明示している。

＜都市環境デザイン工学科＞

シラバスに授業の概要と方法、授業計画、授業外に行うべき学習活動などを明記し、各自で自覚して学習するとともに、毎回の講義やエチュードを活用して指導を行っている。また、各講義に TA を配置し、学生が相談しやすい環境を整備している。さらに、全教員はオフィスアワーを設定して、履修の手引きおよび各教員室の扉に明示して学生が気軽に質問や相談ができるようにしている。

＜システムデザイン学科＞

各学年には個別に学年担当の教員を配置しており、授業期間開始前の学年別ガイダンスにおいて、当該学年に特徴的な授業や履修上の注意点等を説明している。また、オフィスアワーを設定し、教員室への訪問も容易に行えるようにしている。

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するためにどのような方策を行なっていますか。

＜デザイン工学部＞

年間履修制限49単位を設け、学生の学習時間を確保しやすい仕組みとしている。

授業時間外に教室を開放して学習場所を確保するよう努めているが、施設が限られており開放できる教室は少ないのが現状である。とくに多くの学習時間（予習・復習）を要する実習系の授業スペース不足は深刻である。今年度は、施設の利用状況を定量的に調査分析し、データを収集することを目標に掲げている。

＜建築学科＞

学科内に IAE (Integrated Archive Environment) サーバーを立ち上げ、科目の成果物を記録している。IAE サーバーは、演習作品や発表データなどをポートフォリオとして公開する RFC (Request For Comments) 機能をもつ。公開されたポートフォリオは学生が自由に閲覧でき、コメントを発信することができる。RFC 機能の活用により、予習・復習の促進を図っている。授業時間外に教室を開放して学習場所を確保するよう努めているが、施設が限られており開放できる教室は少ない。とくに多くの学習時間（予習・復習）を要する「デザインスタジオ」のスペース不足は深刻であり、懸念事項となっている。

＜都市環境デザイン工学科＞

学習保証時間を 1600 時間とし、それぞれの学習・教育目標の保証時間を定めている。各科目のシラバスには、その科目がカバーする学習・教育目標をパーセント表示で示している。卒業研究は学習保証時間を 270 時間としており、その証明は受講生が記録する卒業研究実施記録により確認している。

＜システムデザイン学科＞

予習・復習が容易に行えるよう、授業支援システムを活用した資料提供や学習指示を行っている。また、とくに演習・実習系の授業では、授業時間外での作品制作やグループワークが行われるため、スタジオルームを授業時間外に開放したり、研究室を利用できるようにしたりするなどの配慮を行っている。今年度は、実際の学習時間について、学科として組織的に把握するための調査を実施する予定である。

④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか (PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。

＜建築学科＞

HAL (Hosei Active Learning) スタジオを活用し、「アーバニズム」、「デザインスタジオ 5~6」などの授業で、アクティブラーニングを取り入れている。

＜都市環境デザイン工学科＞

実際に手を動かしてものづくりを行う科目においてアクティブラーニングや PBL の概念を取り入れた授業を実施しており、その内容は年次が高くなるほど高度となっている。「デザインスタジオ 1」では、造形の基礎学習として、紙の小片を

組み合わせた架構を考えさせ、制作させている。「橋のデザイン」では、既存橋梁の模型製作や、自ら計画した橋梁の模型製作を行っており、「鋼構造デザイン実習」では、自ら設計したものの模型製作を行っている。「RC構造デザイン実習」でも、自ら設計した橋梁下部の現場見学を行い、さらに下部工の配筋模型の製作をグループ単位で行っている。「デザインスタジオ2」では、対象地区に対する現地調査と課題抽出を行った後、その改善策を図面と模型により提案させている。

＜システムデザイン学科＞

「ものづくり」を総合的に学ぶという学科の目的を踏まえ、全専任教員が、それぞれ個別の課題を課すという形式ではなく、共通テーマの課題に対して、それぞれが各専門分野からアプローチするという形の横断的実習授業を実施している。また、4年次の卒業研究・卒業制作に繋がる3年次秋学期のゼミ配属に向けて、学生が自身の適性を認識するため、および学生・教員間の研究交流を活性化し多分野融合研究の基礎を作り上げるため、全学生が複数のプレゼミを受講する必修授業を3年次春学期に設置している。さらに、本格的な製品企画を行う「フィールドワーク」とその企画を実際の形にする「応用プロジェクト研究」などのPBL型授業も開講している。

## 5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

### ①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

＜デザイン工学部＞

大学で定めたフォーマットに従って、すべての教員が担当科目のシラバスを作成している。各シラバスは、Webで公開しており、すべての教員、学生が閲覧できる仕組みとしている。これにより相互にシラバスが適切に作成されているかを検証している。

### ②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

＜建築学科＞

授業支援システムおよびIAEサーバーに、授業の資料、学生の提出物などを記録し、JABEE運営委員会がその検証を行っている。

＜都市環境デザイン工学科＞

講義終了後に毎回の講義内容を簡潔に記録した講義記録及び配布資料をJABEE室に提出することにより検証している。さらにその提出業況について教室会議、拡大教室会議において再確認している。補講についても全て提出するシステムとしているため、時間の保証にとどまらず、講義内容の確認を可能としている。

＜システムデザイン学科＞

全専任教員が担当する「システムデザイン入門」「プロジェクト実習・制作」「フィールドワーク」や「応用プロジェクト研究」等の授業では、教員別の提出課題や成果発表などを通して相互検証を行っている。また、各系の複数の教員が担当する「デザインスタジオ」でも各専門の立場から相互検証を行っている。

## 5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

### ①成績評価と単位認定の適切性をどのように確認していますか。

＜デザイン工学部＞

成績評価に疑義がある場合には、文書にて学務課に調査依頼を提出する仕組みがある。このような提出があった場合には、調査結果を各授業担当者が学務課を通して当該学生に通知する仕組みとしている。

＜建築学科＞

成績評価の方法と評価基準はシラバスに明記している。その適切性をJABEE運営委員会が検証し、その結果を教室会議で確認している。

＜都市環境デザイン工学科＞

成績評価の方法と基準は履修の手引きとシラバスに明記して周知している。また、学科では必要に応じて学生自身の回答紙を開示し、そのような採点に至った理由を説明している。さらに、教員は採点結果報告書を作成して成績分布の確認を行うシステムを採用している。

＜システムデザイン学科＞

各授業ガイダンスにおいて、学生に対して成績評価基準を明示することで、学生と教員間の単位認定に関するコンセンサス作りを行っている。演習系授業のグループワークにおいては、各人のグループ成果への貢献度が見えにくく、個人の努力が成績に反映されにくい部分もあり、役割分担を明らかにするなどの対策を講じている。

### ②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。

＜デザイン工学部＞

学生の申請に基づき、各学科で検討した後、運営委員会および教授会で審議する仕組みとしている。各学科での検討は、既修得単位と当学部の科目との整合性を他大学等でのシラバスを利用して十分に調査した上で、既修得単位を認定する仕組みとしている。一部の学科においては内規を設けているものの、学部としての規定は設けていない。

ただし、学部としてのカリキュラムの一貫性保持の理由から転編入制度は設けていない。また、他大学との単位互換に関する協定も設けていない。

③厳格な成績評価を行うためにどのような方策を行っていますか。

<建築学科>

IAE サーバーに、授業の資料、学生の提出物の他、成績原簿を記録し、日本技術者教育認定基準に定められた「シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの評価目標に対する達成度が評価されていること」に従って、シラバスに明記された成績評価の方法に整合する成績評価を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

出席管理システムに学科で統一した遅刻時間、欠席とする時間設定を設け、講義に対する欠席回数も統一したルールで行っている。また、成績評価項目（レポート、中間、期末試験など）での評価比率をシラバスに掲載し、成績評価の厳格化を図っている。この際、安易に単位を認定しないよう、必修科目などでは追試を行い（50点～59点を対象）、修得の機会を与えている。

<システムデザイン学科>

成績評価基準をシラバスや授業ガイダンスにおいて明示しており、複数教員が担当する科目については教員間の相互検証が行われている。兼任講師も含めてすべての授業で評価基準に従って厳格な成績評価が行われているかの組織的な検証は十分とはいえないものの、年度末に開催される全教員による学科カリキュラム打ち合わせ会において厳格な成績評価を行うことを周知するように努めている。

5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

①成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。

<建築学科>

昨年度に、2011年度に導入したカリキュラムの改訂を行っている。今年度は、教室会議において、その成果を見極めていく。

<都市環境デザイン工学科>

学科内に設けている学習・教育プログラムに関する組織・ネットワークを形成している。教育成果は教育内容 WG を中心に定期的な検証を実施し、教室会議において報告・審議を行っている。2011年度はカリキュラムの見直しを行ったが、この際、教育改善 WG が中心となって授業改善アンケート結果や外部有識者からなる教育評議委員会などの意見をまとめた結果を参考にしている。2015年度には、進級基準（1年生から2年生）と一部の必修科目の履修要件の見直しを行っている。

<システムデザイン学科>

教室会議や年度末に行う授業別のカリキュラム会議にて学生の履修情報を教員間で交換するなどし、授業内容・方法の見直しの参考としている。2015年度には「フィールドワーク」など一部の授業の内容の見直しを行っている。

②学生による授業改善アンケート結果をどのように組織的に利用していますか。

<建築学科>

授業改善アンケートからの「気づき」をシラバスに明記し、学科内で共有している。教室会議にて意見交換を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

教育改善活動は、主に教育改善 WG を中心に実施している。授業改善アンケート結果に基づき各科目担当教員による次期授業改善計画書を作成している。また、学科独自の授業改善アンケート結果に基づき、優秀授業賞を定め、授業改善のための予算を支給する仕組みとしている。科目ごとの評価結果および受講生の意見は担当教員に提示され、次期授業の改善策の検討に供されている。各授業の評価は教室会議等で各教員に公開されている。授業評価点が「普通」（3点）以下の場合には注意を促している。授業評価が高かった科目と担当教員名は本学科掲示板にて、全教職員および学生に開示している。

<システムデザイン学科>

各教員に送付される授業改善アンケート結果の内容をそれぞれが照査し、特徴的事象については、教室会議や毎年度末に実施している兼任教員との授業打合せ会において情報交換を行い、授業内容の見直しに活用している。

**6 成果**

6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果をどのように測定していますか（習熟度達成テスト等）。

<建築学科>

学習・教育到達目標の達成度を評価するシステム(CARESS 履修支援システム)を構築・提供し、学生自身が学期ごとに達成度を自己確認できるようにしている。「デザインスタジオ」などの演習科目においてはファイナルレビュー（最終講評会）を開催し、他のスタジオの教員が横断的に参加をし、学習成果の達成度を確認している。

<都市環境デザイン工学科>

学習・教育目標の達成度を評価するシステムを構築して、学期末に学生自身で確認するよう指導するとともに、全教員に情報を開示している。また、本システムでは履修状況やGPA、資格要件の達成度も確認できるようになっている。

<システムデザイン学科>

就職状況や学内外の各種デザインコンペティションの受賞状況から判断している。また、2013年4月に履修計画立案・達成度評価支援システム（SDR）を導入しており、学生の志望や志向、履修状況の履歴等を確認できるようになっている。

②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

<建築学科>

学科主任、指導教員が定期的に把握した状況を、教室会議にて共有している。

<都市環境デザイン工学科>

出席管理システムにより出席状況の把握を行うとともに、学期末には採点結果報告書を作成し、成績分布、試験放棄者の把握を行っている。留級や要注意学生などの状況は教室会議で確認している。

<システムデザイン学科>

出席管理システムにより出席状況を把握している。出席状況や履修状況に問題があるなど、進級や卒業が危ぶまれる学生については、学科内で把握し、情報共有している。

③学習成果をどのように可視化していますか。

<建築学科>

「デザインスタジオ」の作品、卒業論文、卒業設計については、作品集、論文集を刊行している。また、5.1の③で述べたIAEサーバーのRFC機能により、学生による研究成果や作品の発信を図っている。IAEサーバーには、個々の学生の成果物が記録されているので、それを利用して学生がポートフォリオ（e-Portfolio）を作成できるようにしている。「デザインスタジオ」などの演習系の科目では、学期ごとに講評会を行い、優秀作品を学内に展示している。

<都市環境デザイン工学科>

達成度評価システムというソフト開発を行い、学生が取得した科目の成績を入力すれば、卒業要件に必要な残りの各分野での単位数、GPA、各種資格要件に必要な科目で未修得のものの表示、卒業時での学習・教育目標の達成度に対して、現在どこまで達成しているかを確認することができるようにしている。

<システムデザイン学科>

2013年に導入した履修計画立案・達成度評価支援システム（SDR）を活用することにより、学習成果を可視化させようとしている。今後は、学生がより主体的に本システムを活用するための方策について検討する。

④成績が不振な学生にどのような対応を行っていますか。

<建築学科>

学科主任、指導教員が定期的に問題点を把握し、教室会議で対応を協議している。その上で、進級・卒業に支障が生じることがないように、学科主任あるいは指導教員が指導を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

留級生並びに進級に不安がある者を対象に担任教員が個別に面談を行い、必要に応じて保護者に注意を促す書面を送っている。

<システムデザイン学科>

半期または1年ごとに、取得単位数やGPAの値がある一定水準以下の学生に対して、導入ゼミナールの担任教員あるいは学科主任が面談・指導を行っている。

6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①卒業、卒業保留、退学状況を学部（学科）単位で把握していますか。

<デザイン工学部>

学部の運営委員会および教授会において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、休学者や退学者については、その理由や状況について情報を共有している。

<建築学科>

教室会議にて状況を確認している。退学を申し出た学生には、学科主任または指導教員が面談を行い、問題点と退学理由の把握を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

年度末には全ての履修状況データを把握し、教室会議での情報共有を図っている。留年生は呼び出しを行い、履修指導や生活指導を実施している。また、退学希望者には学科主任または担任が面談を行い退学理由の把握を行うとともに大学への要望等の把握を行っている。

<システムデザイン学科>

卒業、卒業保留については教室会議での審議・確認事項としている。退学については、学科主任が本人との面談を通して十分にその理由を確認し、留年については、海外留学生の留学状況を含めて、教室会議において全教員の共通確認事項としている。

②学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。

<建築学科>

就職担当教員が学科全体の状況を把握し、教室会議に報告している。また、ゼミに所属する学生については、指導教員が状況を把握し、おもに教室会議で情報交換を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

就職担当教員を中心に進路状況をすべて把握し、教室会議で報告している。

<システムデザイン学科>

4年生の学年担当、および就職担当の教員が、大学院を含めて求人や内定状況に関する就職活動情報を収集・管理している。その内容は随時、全教員に報告され、就職活動の概況が把握できるようにしている。

**7 学生の受け入れ**

7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

<デザイン工学部>

横断的な知識の融合により、多面的な観点から物事を検討し、公正な価値観を持った、創造性豊かな人材の育成を目的としている。このため、工学的な基礎学力に加えて、自然や環境、歴史や文化とのかかわり合いを大切に考え、豊かな感性を備えた、倫理観、積極性のある学生の受け入れを目指している。

一般入試やセンター試験利用入試、統一日程入試という学力による入学試験の他に、指定校推薦入試、付属校推薦入試、外国人留学生入試、帰国生入試、スポーツ推薦入試など様々な入学経路を設けることにより、多様な学生を受け入れている。

<建築学科>

以下のアドミッション・ポリシーを定めている。

建築は専門の幅が広いので、大学以前に広く教科を修めておかねばなりません。理数系、国語、英語、歴史、芸術、コミュニケーション力など基礎力をもった人を受け入れます。そして建築家、技術者、さまざまなプロジェクトのプロデューサーなどとして、第一線で活躍したい若者を求めています。専任教授陣および兼任講師の多くが専門分野の第一線で活躍しており、インターンシップなどでは、実務の現場を在学中から体験することで、自らの将来像を描くことができます。そして最小限の基盤的な必修を除いて、他学科共通科目を含む幅広い学問を選択でき、自由に求める自己実現に近づくことができるので、スキルを磨きたいという学生もぜひ挑戦してください。また海外に関わり活躍中の講師を招聘し、最新の各種デザインやコンピュータ、造形のデザイン指導を行っています。よって海外のリアルな情報にふれることができ、海外留学の足掛かりとなるので、世界にむけて飛躍したいと考えている人も受け入れています。

<都市環境デザイン工学科>

以下のアドミッション・ポリシーを定めている。

組織依存型ではなく自己に対する責任感の強い人材、すなわち自分で考え、判断し、主体的に自分の運命を切り拓いていく人材、積極的に社会の進歩に寄与する自立型人材を社会に送り出すことを重視しています。また、グローバル化、国際化に対応できる幅広い視野と独創性、ならびに問題解決能力を持つ確かな技術者を育成することを目指し、高度な専門性と広い教養という両面を重視しながら実学の伝統を堅持する人材の育成に努めています。さらには、環境問題や大きく変貌しつつある社会情勢も考慮に入れた次世代の社会基盤のあり方などについて、的確な判断力、洞察力、問題解決能力を有する人材の育成を目標としています。

このような観点から、本学科では、工学的な基礎学力に加えて、自然とのかかわり合いを大切にして、生活しやすい安全で安心な都市空間を築き、われわれの共通の財産として維持・管理することに深い興味を有する個性ある積極的な学生を求めています。

<システムデザイン学科>

以下のようなアドミッション・ポリシーを定めている。

システムデザイン学科では、電気工学や機械工学などといった従来からの縦割りの専門に特化せず、横断的な知識の融合により、多面的な観点から物事を検討することができ、公正な価値観をもった、創造性豊かな人材を育成することを目的としている。このために、一般入試による学力試験では、「英語」「数学」「理科（物理・化学）」の3教科を受験し、得点の高い2教科を用いて合否判定を行っている。また、センター入試では、「国語」「数学」「理科（物理、化学、生物、地学）」「外国語」から上位3科目の得点で合否判定を行い、文系的素養をもつ学生も受け入れている。その他、指定校推薦入試、付属校推薦入試、統一入試、留学生入試、帰国生入試、スポーツ推薦入試など様々な入学経路を設け、多様な学生を集めている。

<p>これらの試験を通して、本学科では、以下のような素養を身に付けた学生が入学することを期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学力を持っており、勉学の習慣を身に付けている者</li> <li>・文系的素養も持ち、豊かな感性をそなえている者</li> <li>・デザインだけでなく、工学的視点から客観的に物事を判断・評価することに関心のある者</li> </ul>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p><u>①定員の超過・未充足にどのように対応していますか。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>入学者数の算定に経験豊富な入学センターのアドバイスに基づいて一般入試の合格者のボーダーラインを定めている。一時期、建築学科で入学者の超過が著しかったものの、ここ数年間は適正な超過率となっている。今後も、入学センターと協力して、適正な入学者数となるように努める。</p>
<p>7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p><u>①学生募集および入学者選抜の結果についてどのように検証していますか。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>全学の方針に基づき、様々な方式による入学試験を実施して、多種多様な学生の確保に努力している。一般入試による入学者数を一定数確保するため、比較的定員の多い指定校推薦では、過去の入学実績に基づいて毎年指定校の見直しを行って、適正な学力と素養をもつ学生を確保しつつ、大幅な超過のないように努力している。</p> <p>新入生がプレースメントテストと TOEFL-ITP レベル2 を受験する仕組みとしており、入学時の学力を調査している。これにより、入学経路による学力の違いを把握し、入学選抜結果を検証している。</p>
<p><b>8 管理運営</b></p>
<p>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</p> <p><u>①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>学部執行部は、学部長、主任、副主任から構成されており、その役割分担を明確にしている。学部の運営は運営委員会（執行部＋各学科主任）と教授会を中心に行っている。それらの運営は「法政大学デザイン工学部教授会規定内規」および「法政大学デザイン工学部運営委員会規定」に従って行っている。</p>
<p><b>9 内部質保証</b></p>
<p>9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。</p> <p><u>①質保証委員会は「果たすべき基本的な役割」に則して適切に活動していますか。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>2012 度から質保証委員会を立ち上げ、年 4 回の委員会を開催し、教授会で報告を行っている。今年度も引き続き、同委員会を立ち上げ、評価結果に基づいて目標達成に向けて授業改善等が行われているかを確認し、教授会に周知するとともに、さらなる改善に向けての提案を行っている。</p> <p>ただし、「果たすべき基本的な役割」が明確でなかった部分もあり、現在その役割と構成について検討している。</p> <p><u>②広義の質保証活動への教員の参加状況を説明してください。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>質保証委員会は各学科の専任教員から 1 名（計 3 名）と各大学院専攻主任 3 名の計 6 名で構成されている。学科選出委員は学科の意見取りまとめ、学科状況の把握に努め、その他の委員は学部全般に関する視点を持って委員会の作業全般に参加している。</p>
<p><b>学生支援【任意項目】</b></p>
<p>学生への生活支援は適切に行われているか。</p> <p><u>・学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。</u></p> <p>&lt;デザイン工学部&gt;</p> <p>1 年春学期から全教員が少人数の学生を担当する「導入ゼミナール」の開講、学期ごとに曜日・時間・場所を示したオフィスアワーの設置などによって学生が相談しやすい環境を整備している。また、高学年の学生に対しては、少人数クラス制のゼミナール形式の科目や「卒業研究」において、学生からの相談への対応を行っている。</p> <p><u>・学部（学科）として各種ハラスメント（アカデミックハラスメント、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等）の防止の取り組みを行なっていますか。</u></p>

<p>&lt;デザイン工学部&gt; 各種ハラスメント防止パンフレットを配布するとともに、教授会において注意喚起を行っている。 ・学部（学科）として学生の海外留学等の相談に組織的に対応していますか。</p>
<p>&lt;デザイン工学部&gt; ①と同じ。</p>
<p><b>教育研究等環境【任意項目】</b></p>
<p>図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。 ・資料室や学科事務室等の図書資料は適切に整備されていますか。</p>
<p>&lt;デザイン工学部&gt; 学部独自の図書館スペースは十分ではなく、機能しているとは言い難い。ただし、情報サービスについては、大学のシステムが整備されており、それを利用できる環境にある。</p>
<p>教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。</p>
<p>&lt;デザイン工学部&gt; 教育技術嘱託、ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）などの技術スタッフについては、その役割を明確している。TA、RAについては、事務と連携をとり、年度の初めにガイダンスを実施し、適切に配置している。 ・その他部局で取り組んでいる重点事項があれば記載してください。</p>
<p>&lt;デザイン工学部&gt; 限られた教育・研究スペースの有効活用を図るため、「施設委員会」を設けて活動した。その結果、各学科の実験・実習を行えるようなスペースを捻出した。しかし、手狭であることには変わりなく、教育・研究活動を行うためのスペースの改善という意味では十分ではなかった。また、施設が各所に分散しており、効率的な教育・研究活動を行うためには改善が必要であり、今年度から改善のための活動を開始する予定である。</p>
<p>研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。 ・研究倫理に関する学内規程に基づき、規程の周知、研修会の開催等、研究倫理を浸透させるための取り組みを行っていますか。</p>
<p>&lt;デザイン工学部&gt; 科学研究費助成事業などの競争的補助金の取得者に対して、研究倫理についての聴講が義務付けられている。現在、大学として検討されている研究倫理に関する規定案については、全教員に配布している。</p>
<p><b>社会連携・社会貢献【任意項目】</b></p>
<p>教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。 ・教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動（シンポジウムや公開講座など）を行っていますか。</p>
<p>&lt;デザイン工学部&gt; 当学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究所」と協力して、公開講座などを実施している。また、多くの教員が学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めている。 建築学科では公開講座を実施している。都市環境デザイン工学科では、卒業生対象ではあるが、教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく社会学セミナーを実施している。システムデザイン学科では、公開講演会を実施している。 ・学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組みを行っていますか。</p>
<p>&lt;建築学科&gt; 例年5月下旬の土曜日に、学科同窓会と連携して、専任教員全員、1年生全員、その他の学年の学生有志、卒業生が、「ウォークラリー」と称する街歩きを行っている。「ウォークラリー」では、特徴ある建築や街の姿に触れることにより、学習の動機付けを図っている。</p>
<p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt; 学外組織と共同研究、受託・寄付研究等を行うことにより教育研究の推進を図るとともに社会への研究成果の還元を行っている。</p>
<p>&lt;システムデザイン学科&gt; 学外組織との共同研究・受託研究・寄付研究等を行うことにより、産官学連携による教育研究の推進を行っている。また積極的に学外のコンペ等に作品や成果を応募するようにしている。 ・域交流や国際交流事業に関する取り組みを行っていますか。</p>

<p>&lt;建築学科&gt; 大学院の「海外交流プログラム」と連動して、学部生も参加できる「国際ワークショップ」を開催している。</p> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt; 学内の研究組織であるエコ地域デザイン研究所と共同で、本学近傍に位置する江戸城外濠（国史跡）の環境改善について、周辺の企業（大日本印刷株式会社）や地域住民と連携し、「外濠市民塾」を運営している。外濠周辺の学内外専門家による専門知識の提供を中心としたレクチャーや街歩き、ワークショップをベースに、教員・学生・地域企業勤務者・地域住民間の交流を行っている。</p> <p>&lt;システムデザイン学科&gt; 大学院の「海外交流プログラム」と連動して、学部生も参加するゼミナールや合宿を実施している。</p>	
現状分析根拠資料一覧	
資料番号	資料名
1 理念・目的	
1.1	<p>① 理念・目的</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部ホームページ</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『アーキテクトマインドとは何か？』</li> </ul>
1.2	<p>① 周知方法</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部ホームページ</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『アーキテクトマインドとは何か？』</li> <li>・Web シラバスの URL</li> </ul>
1.3	<p>① 検証プロセス</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JABEE 運営委員会議事録</li> <li>・JABEE 外部評価委員会議事録</li> <li>・JABEE 規約（規程）</li> <li>・JABEE 認定証</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> <li>・拡大教室会議議事録</li> <li>・JABEE 規約（規程）</li> <li>・JABEE 認定証</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質保証委員会議事録</li> </ul>
2 教員・教員組織	
2.1	<p>① 編成方針</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部ホームページ</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> <li>・大学案内 2016</li> </ul>

	<p>② 大学院との連携</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部担当表および大学院担当表</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『アーキテクトマインドとは何か?』</li> </ul> <p>&lt;SD 学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバスの URL</li> </ul>
	<p>③ 採用・昇格の規定</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザイン工学部教員適格審査内規」(D 工規程 006 号)</li> <li>・「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規」(D 工規程 008 号)</li> </ul>
	<p>④ 役割分担・責任の所在</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「法政大デザイン工学部運営委員会規程」(D 工規程 002 号)</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科内規程</li> <li>・教室会議議事録</li> <li>・拡大教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>
2.2	<p>①教員組織</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き (2015 年度入学生用)</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き (2014 年度以前入学生用)</li> </ul> <p>②特定年齢に偏らない配慮</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザイン工学部・若手採用人事」に関する申し合わせ (D 工申し合わせ)</li> <li>・教員年齢構成表</li> </ul>
2.3	<p>①規程の整備</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザイン工学部教員適格審査内規」(D 工規程 006 号)</li> <li>・「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規」(D 工規程 008 号)</li> <li>・「デザイン工学部人事委員会構成・運営細則」(D 工規程 007 号)</li> </ul> <p>②募集・任命・昇格のプロセス</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科教室会議議事録</li> </ul>
2.4	<p>①FD 活動</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> <li>・拡大教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>
3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施	
3.1	<p>①学位授与方針</p> <p>&lt;学部&gt;</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部ホームページ</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul>
3.2	<p>①教育課程の編成・実施方針</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部ホームページ</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul>
3.3	<p>①教育課程の編成・実施方針の周知方法</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部ホームページ</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> <li>・Web シラバスの URL</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『アーキテクトマインドとは何か?』</li> </ul>
3.4	<p>①検証プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質保証委員会議事録</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JABEE 運営委員会議事録</li> <li>・外部評価委員会議事録</li> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> <li>・拡大教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>
4 教育課程・教育内容	
4.1	<p>①カリキュラムの順次性・体系性の確保</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul> <p>②豊かな人間性を滋養する教育課程</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul>
4.2	<p>①教育課程・教育内容の特徴</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JABEE 認定書</li> </ul> <p>②初年次教育・キャリア教育</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> <li>・ロジカルライティングの実施について（掲示）</li> </ul> <p>③学生の国際性の滋養</p> <p>&lt;学部&gt;</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> <li>・英語単位認定制度について（掲示）</li> <li>・Web シラバスの URL</li> </ul>
5 教育方法	
5.1	<p>①教育方法および学習方法</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> <li>・2015年度ガイダンス日程表</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAE サーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「達成度評価システム」の URL</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「履修計画立案・達成度評価システム」の URL</li> <li>・2015年度 SSI 履修要項・講義概要</li> </ul> <p>②学生の学習指導</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> <li>・Web シラバスの URL</li> </ul> <p>③学習時間の確保</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバスの URL</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAE サーバー「RFC」（Request for Comments）の利用案内</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究実施記録</li> </ul> <p>④新たな授業形態の導入</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバスの URL</li> </ul>
5.2	<p>①シラバスの検証</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバス URL</li> </ul> <p>②授業の検証</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAE サーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義記録および配布資料</li> </ul>
5.3	<p>①成績評価と単位認定</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> <li>・Web シラバス URL</li> <li>・成績評価の調査について（掲示）</li> <li>・成績調査願</li> </ul> <p>②既修得単位の認定</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前既修得単位の認定について（教授会資料）</li> </ul>

	<p>③厳格な成績調査</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本技術者教育認定基準（2012年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012年度～）</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市遅刻設定科目一覧</li> <li>・追試該当者の掲示</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバス URL</li> </ul>
5.4	<p>①成果の検証</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> <li>・学則変更新旧対照表</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>②授業改善アンケートの利用</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバス URL</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大教室会議議事録</li> <li>・優秀者賞の掲示</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師懇談会案内</li> </ul>
6 成果	
6.1	<p>①学習成果の測定</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAE サーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「達成度評価システム」の URL</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「履修計画立案・達成度評価システム」の URL</li> </ul> <p>②成績分布・試験放棄・進級等の把握</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>③学習成果の可視化</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAE サーバー「RFC」（Request for Comments）の利用案内</li> <li>・『HOSEI SUTDIOWORKS』（作品集）</li> <li>・『建築研究』（論文集）</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「達成度評価システム」の URL</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「履修計画立案・達成度評価システム」の URL</li> </ul> <p>④成績不振学生への対応</p>

	<p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>
6.2	<p>①卒業・卒業保留・退学状況の把握</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>②学生の就職・進学状況の把握</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアセンター進路先データ</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>
7 学生の受入れ	
7.1	<p>①学生の受入方針</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部ホームページ</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul>
7.2	<p>①収容定員の適正管理</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回学部長会議資料（定員充足率）</li> </ul>
7.3	<p>①学生募集および入学者選抜結果の検証</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレイスメントテスト成績結果</li> <li>・TOEFL-ITP レベル2の成績結果</li> </ul>
8 管理運営	
8.1	<p>①規程に基づく管理運営</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「法政大学デザイン工学部教授会規程内規」（D工規程 001号）</li> <li>・「法政大学デザイン工学部運営委員会規程」（D工規程 002号）</li> </ul>
9 内部質保証	
9.1	<p>①質保証委員会の適切な活動</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質保証委員会の議事録</li> </ul> <p>②質保証活動への教員参加状況</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質保証委員会規約</li> </ul>
学生支援	
10.1	<p>①学生生活相談への組織的な対応</p>

	<p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul> <p>②ハラスメント防止の取り組み</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ハラスメント防止パンフレット</li> </ul> <p>③海外留学等の相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2015年度入学生用）</li> <li>・デザイン工学部履修の手引き（2014年度以前入学生用）</li> </ul>
教育研究等環境	
11.2	<p>①TA、RA、技術スタッフなどの教育支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TAおよびRAの一覧表</li> <li>・TA・RAの規程</li> <li>・教育技術嘱託の一覧表</li> </ul>
社会連携・社会貢献	
12.1	<p>①社会へのサービス活動</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エコ地域デザイン研究所」パンフ</li> <li>・「社会工学セミナー」パンフ</li> </ul> <p>② 学外組織との連携</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウォークラリー」ポスター</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発センター「研究実績・採択実績」のURL</li> </ul> <p>③ 地域交流や国際交流事業への取り組み</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際ワークショップ」のポスター</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「外濠市民塾」パンフ</li> </ul>

### Ⅲ. 学部(学科)の重点目標

各学科の達成度評価システムの調査と達成度評価項目・方法の整理。各学科のシステム構築に関する代表者からなる検討会を設け、上記検討を行う。

### Ⅳ 2014年度目標達成状況

No	評価基準	教育課程・教育内容
1	中期目標	1) 2011年度実施のカリキュラム改定について、評価と必要に応じた見直しを行う。 2) 完全セメスター制導入の可否について結論を得る。また、現在導入しているクォーター制の効果と課題について検討する。
	年度目標	1) 2011年度実施のカリキュラム改定の評価を開始する。 2) 完全セメスター制導入の可否を各学科で検討する。
	達成指標	1) カリキュラム改定に伴う改善点と新カリキュラムの問題点を列挙する。 2) 完全セメスター制を導入した場合に想定される問題点を学科ごとに列挙する。
	年度末報告	<p>自己評価 A</p> <p>理由</p> <p>1) 2011年実施のカリキュラム改定によって改善された点や現行カリキュラムに関する諸問題を挙げ、それらを踏まえた比較的小規模なカリキュラム改定を行った。 2) 卒業科目が一部学科を除いて通年であったのを学科・学部で検討し、完全セメスター制を導入した。</p> <p>改善策</p> <p>1) 学部共通科目の位置づけや開講期・曜日・時限について学科間で調整する。</p>

			2) 完全セメスター制において、就業年限を延長せずに留学・長期インターシップなどを可能にするための進級要件見直しや留学期間中の単位認定基準の整理を行う。また、春学期開講の卒業論文・卒業設計の評価方法を検討する。 クォーター制とセメスター制とが混合している現状に対し、クォーター制の利点・効果をさらに検討する。	
No	評価基準	教育方法		
2	中期目標	学部の教育内容に適した教育方法と、それを実践するために必要な施設設備や情報システム（情報教育システム、授業支援システムなど）の再検討を行い、教育学習環境の改善に繋げる。		
	年度目標	施設設備や情報システムの観点から、デザイン工学部の教育学習環境の現状を調査する。		
	達成指標	施設設備や情報システムの観点から、教育学習環境の問題点を列挙する。		
	年度末報告	自己評価	A	
		理由	実験室・演習室の不足、図書室の不足、食堂スペース・メニューの不足、校舎の分散（市ヶ谷田町校舎、新見附校舎、大郷ビル）による影響など、継続して現状の窮状を把握した。さらに今後の学習環境の改善策について、定量的な面、および将来的展望も含めて検討した。	
改善策		学習環境の充実に向けて、より具体的な改善策を提案し、各年度で可能な改善を積み重ねていく。		
No	評価基準	成果		
3	中期目標	各学科の達成度評価システムによる学生の学習成果の可視化を推進し、履修指導・進路指導に活用する仕組みについて検討する。		
	年度目標	達成度評価システムの利用状況を調査し、利用率向上に努める。		
	達成指標	各学科の達成度評価システムの利用率が50%以上		
	年度末報告	自己評価	A	
		理由	各学科の達成度評価システムは、目標とする50%以上の利用率が得られ、目標が達成できている。	
改善策		今後は、蓄積されたデータを履修指導や進路指導に活用する仕組みについて検討する。達成度評価システムは学科の特性に応じて各学科ごとのシステムを構築しているが、可能な範囲で学部共通のシステムについて検討していく。		

## V 2015年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・教育内容
1	中期目標	1) 2011年度実施のカリキュラム改定について、評価と必要に応じた見直しを行う。 2) 完全セメスター制導入の可否について結論を得る。また、現在導入しているクォーター制の効果と課題について検討する。
	年度目標	1) 学部共通科目の位置づけや開講期・曜日・時限について学科間で調整する。 2) 完全セメスター制において、就業年限を延長せずに留学・長期インターシップなどを可能にするための進級要件見直しや留学期間中の単位認定基準の整理を行う。また、春学期開講の卒業論文・卒業設計の評価方法を検討する。 クォーター制とセメスター制とが混在している現状に対し、クォーター制の利点・効果をさらに検討する。
	達成指標	検討結果をまとめた報告書の作成。
No	評価基準	教育方法
2	中期目標	学部の教育内容に適した教育方法と、それを実践するために必要な施設設備や情報システム（情報教育システム、授業支援システムなど）の再検討を行い、教育学習環境の改善に繋げる。
	年度目標	現在の施設とその利用方法・状況を調査・整理する。
	達成指標	現在の施設とその利用方法・状況をとりまとめた報告書の作成。
No	評価基準	成果
3	中期目標	各学科の達成度評価システムによる学生の学習成果の可視化を推進し、履修指導・進路指導に活用する仕組みについて検討する。
	年度目標	3学科で独自に進められている達成度評価システムの項目を比較検討する。望ましい達成度評価シス

	テムを構成する項目を整理する。
達成指標	検討委員会の立ち上げ。望ましい達成度評価システムを構成する項目を整理した報告書の作成。

## VI 2012 年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

No	基準項目	5. 学生の受け入れ
1	大学基準協会からの指摘事項	過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、デザイン工学部建築学科で1.20と高く、また、収容定員に対する在籍学生数比率について、理工学部電気電子工学科で1.21、政策創造研究科博士後期課程で3.33と高く、一方、経済学研究科修士課程で0.32、法学研究科修士課程で0.20と低いので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	建築学科については、一般入試の手続き率が予想よりも高かった。すなわち、一般入試の査定精度が低かった。
	改善計画・改善状況	建築学科の入学定員が2013年度より120名から132名に変更された。目標とする建築学科の入学定員に対する入学者数比率が1.00とされた。入学センターと協力して、一般入試の査定がより厳密に行われた。その結果、上記比率が2013年度0.95、2014年度1.07、2015年度0.95と改善された。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	2015年度第1回入学試験委員会資料

## VII 大学評価報告書

大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見
<p>2014年度における大学評価委員会の評価結果に対して</p> <p>1) 「過去一年間PDCAによる質保証活動をせず一年横滑りさせたかのように見受けられる」という指摘は、自己点検書式「現状分析シート」の記述方法に関するものであった。これに対してデザイン工学部は、基盤的事項や一定期間不変であるべき事項について、毎年度、現状分析シートの記述を異にすることはなじまないであろうとしつつも、2015年度の現状分析シートでは改訂がなされ対応がとられている。また、今後は学部・学科独自の取り組みを記録化していく、と述べられているとおり、現状分析シートの根拠資料一覧は丁寧に列挙されている。デザイン工学部は多くの優れた取り組みを行っており、記録せずに何気なく行っている取り組みの中にも、優れた活動が潜んでいる可能性があるため、これらを発見し意識化し学部のよりよいサイクルをまわしていただくのがよいと思われる。</p> <p>2) 施設面の不足に関しては、現スペースの利用状況を正確に把握し、その有効利用を図ることを目的として、大学全体の財政運営との関連を考慮して、法人サイドに要望書を提出する準備を進めており、適切に対応がなされている。</p>
現状分析に対する所見
1 理念・目的
<p>1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。</p> <p>デザイン工学部では、3学科に共通する、より人間的側面を重視し、新しいモノやコト、システムを創造する「総合デザイン」という明確な理念が適切に設定されている。また、各学科の理念・目的、教育目標の要旨は以下のとおりである。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <p>知識と感性の総体によって創出される真の建築学を身につけた人材の育成を教育目標とし、「アーキテクトマインド」を掲げている。</p> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <p>社会基盤の整備に求められる、地球規模の環境保全、自然環境と共生できる都市づくり、循環型社会の構築などの課題に対応することを目的とし、具体的な理念としてグローバルな視点に立った工学教育を行うことにより、専門技術を活かし問題を解決する能力を身に付け、社会との対話と説明責任の遂行が可能な人材の育成を目指している。</p> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <p>人間中心の美的・機能的デザインを基本とした、「新しい価値を備えたシステムを創造しデザインする工学」という理念を掲げている。</p>
<p>1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。</p> <p>デザイン工学部では、理念・目的や教育目標を「履修の手引き」や大学・学部・学科のホームページで適切に周知・公表するとともに、学部建物内の講師室など数か所でその内容を公開・掲示している。建築学科においては、独自の取り組みとして、学習・教育目標の書かれた小冊子（全66頁）を作成して学生全員に配布し、1年次の「導入ゼミナール」においてそ</p>

<p>の詳細を解説しており、評価できる。</p>
<p>1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p>デザイン工学部では、学部の理念・目的の検証を執行部で行っている。学科の理念・目的の適切性の検証は、質保証委員会（各学科から委員を選出）および教室会議にて行っている。質保証委員会を年4回開催し、理念・目的の適切性を学科相互に検証している。</p> <p>あわせて、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けている建築学科と都市環境デザイン工学科は、その申請・受審のプロセスの中でも理念・目的の適切性を検証している。</p>
<p><b>2 教員・教員組織</b></p>
<p>2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。</p> <p>デザイン工学部では、学部・学科として求める教員像および教員組織の編制方針を明らかにしている。</p> <p>大学院教育との連携については、学部全教員が大学院教育をも担当することで大学院教育との連携を図っている。また、3年次からの専門ゼミナールや卒業研究で大学院における教育の基礎的理解と研究の方向性、教員の専門分野を学部学生が把握できるようにしている。システムデザイン学科では、学部教育の3つの系と大学院の専門3分野の関連性を保っている。学部と大学院教育との連携は大変優れている。</p> <p>教員の採用・昇格に関する規定を作成し、教員の資格要件を示している。また、公募採用に際しては、資格要件を学会・業界などに公表し、教員が満たすべき能力・資質と求める専門性を具体的に明らかにしており、適切な対応が取られている。</p> <p>組織的な教育を実施する上で、デザイン工学部では学科を横断する組織として「運営委員会」を、学科では「教室会議」を設置し、必要な役割分担や責任の所在を明確にし、各責任者（学科によって『プログラム責任者』『クラス担当教員』など）を配置し運営に責任を持つ体制を整えている。学科内の体制については規程に明示されており、取り組みは詳細に準備され適切である。</p>
<p>2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。</p> <p>建築学科では、学科のカリキュラムを構成する5分野にそれぞれの分野の先端的な研究能力を有する教員を配置し、教員は分野間を相互に横断し、カリキュラム全体を把握できる人材としている。都市環境デザイン工学科では、専門の学問分野を3つに区分し、教員は均等に配置され、10名の教授・准教授のうち9名は博士の学位を、4名は技術士の資格を有している。1年に1回講師懇談会を実施し、兼任講師との連携を図っている。システムデザイン学科では、クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系の3分野毎に各系の専任教員を少なくとも3名以上配置し、各系との横断的なつながりを常に意識して授業を運営している。また、各系に精通した教育技術員（職員）を配置し、教員の実習教育を支援する仕組みとしている。以上のことから、カリキュラムに対応した教員組織を備えていると判断できる。</p> <p>教員の構成については、50～60歳代の教員比率が高く、女性教員が少ないことが、今後の検討課題である。2016年度に、専門分野、年代配置、性別を考慮した人事の予定があるが、すべての配慮事項を満足させる人事は難しいことを理解する必要がある。</p>
<p>2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。</p> <p>デザイン工学部では、教員の募集・任免・昇格に関する規定を設け、規定の運用に当たっては「デザイン工学部人事委員会構成・運営細則（D工規定007号）」を整備し、適切に運用している。</p>
<p>2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。</p> <p>デザイン工学部では、カリキュラムが学科単位で組まれているため、学部としてのFD活動はないものの、一部の学部共通科目については運営委員会で調整が行われている。教員の資質向上を図るための方策として、建築学科では、JABEE運営委員会およびスタジオ連絡会議にて、FD活動を活発に実施している。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、学科内に設けた教育改善WGなどにより、FD活動を活発に実施している。学科独自の授業改善アンケート結果に基づき、優秀授業賞を定め、授業改善のための予算を支給する仕組みを設けていることは評価できる仕組みである。また、授業改善に役立てることを目的として授業のビデオ撮影を行い、教員自身の話し方、板書の仕方などを自己点検する仕組みを設けていることは、高く評価できる。</p> <p>システムデザイン学科では、教室会議や学科カリキュラム打ち合わせ会などで各講義の課題を確認・議論し、次年度の対応について全員で意見交換している。</p> <p>総合的に見て、デザイン工学部は活発にFD活動に取り組んでいる。</p>
<p><b>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</b></p>
<p>3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。</p> <p>デザイン工学部では、卒業時に修得しておくべき4つの能力を学習成果として掲げ、そのもとに学科ごとの学習成果を明示した学位授与方針が設定されている。各学科が学士（工学）の学位授与にあたり重視している学習成果の要旨は以下のと</p>

<p>おりである。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <p>「アーキテクトマインド」を獲得することを目的とし、基礎的素養と専門性（卒業研究・卒業設計）の双方を重視している。</p> <p>&lt;都市環境デザイン工学科&gt;</p> <p>持続可能な地域社会の形成などをキーワードとして、基礎・専門の学力に加え、計画的にチームで業務を遂行する能力を重視している。</p> <p>&lt;システムデザイン学科&gt;</p> <p>人間中心にシステムをデザインする、いわゆるシンセシス能力や、環境・健康・福祉・公共の安全を理解し、国際的な視野に立って判断のできる総合システムデザイン能力の素養を重視している。</p>
<p>3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。</p> <p>デザイン工学部では、「1.多様な内容、文理融合の教養教育の充実」「2.基礎的科目と専門教育の連携とその体系的な編成・配置」「3.実務と結びついた演習・実習教育、スタジオ教育の充実」「4.先端技術への対応」「5.少人数によるきめ細かな教育の充実」の5点を学部全体の教育課程の実施方針として掲げ、学科ごとに教育課程の編成方針を設定している。</p>
<p>3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。</p> <p>デザイン工学部では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針をホームページやパンフレットにより社会に公表するとともに、学生には年度初めに行うガイダンスで周知を図っている。さらに、各学科が独自のホームページを構築することで、一層の周知を図っている。</p>
<p>3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p>デザイン工学部では、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証を質保証委員会および教室会議にて行っている。あわせて、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けている建築学科と都市環境デザイン工学科は、その申請・受審のプロセスの中でも教育目標、学位授与方針、教育課程の適切性を検証している。</p>
<p><b>4 教育課程・教育内容</b></p>
<p>4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>カリキュラムの順次性・体系性について、デザイン工学部全体としては、カリキュラムを外国語科目・基盤科目・専門科目にわけ、基盤科目では法律・経営・人文・保健体育分野のほか、留学生向け科目や工学系の基礎的な科目を配置し、進級要件を定めて体系的に修得できるよう配慮している。専門科目の内容は学科の特性によるが、学科基礎科目・学科科目・学部科目・特別科目を配置し、配当年次と進級要件を定めて体系的な積み上げを可能としている。建築学科では、一貫したデザイン教育として、1年次から4年次まで連続する「デザインスタジオ1～7」を設置するとともに、分野別の履修モデルを履修の手引きに掲載し、学生に開示している。都市環境デザイン工学科では、全教育期間を自然科学系基礎教育（工学基礎）、共通専門基礎教育（専門基礎）、専門応用教育の3段階に分け、カリキュラムの順次性と体系性が保たれている。特に、国際的なコミュニケーション能力に不可欠な工学英語を学科独自の教育プログラムとして配置している。システムデザイン学科では、工学やシステムデザインの基礎的な知識・技能から各系（クリエイション系・マネジメント系・テクノロジー系）の専門的な理論や手法と応用について順次習得できるよう教育内容を定めることにより、カリキュラムの順次性・体系性を確保している。</p> <p>また、教養教育と専門教育に関する従来の区分的な考え方を改め、最終年に至る過程で両分野を融合的かつ相補的に学習できるようなカリキュラムと教員体制としている。自然科学系基礎科目、外国語科目などで独自の取り組みが実践されており、評価できる。</p>
<p>4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> <p>デザイン工学部では、各課程に相応しい教育内容が提供されているといえる。キャリア教育として全学科でインターンシップを導入し、学生の国際性を涵養する取り組みとして、1年次の開始前と終わったあとにTOEFL-ITPを導入した習熟度別クラスおよび目標設定を行っている。</p> <p>その他、学科ごとの教育内容の特徴と評価を以下に記す。</p> <p>&lt;建築学科&gt;</p> <p>専門基礎科目（物理・数学等）は、専門科目との関係が理解しやすいように専任教員が担当し、専門各分野を横断的プログラムによって連携させ、実践を重視したプログラムを設けている。少人数教育のクラスも設け、十分な配慮が見受けられる。国際水準に準拠した学士課程・修士課程の教育内容として、2013年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）により認定されたことは評価できる。</p>

初年次教育として、少人数ゼミ形式および専門分野の理解を促す入門講座を設定し、ほとんどの専門科目を建築士資格指定科目と対応づけている。

グローバル教育の取り組みとしては、2年次に外国人教員が担当する科目を設置し、3年次は外国人教員による英語での設計教育を導入している。大学院の「海外交流プログラム」と連動して、学部生も対象とした「国際ワークショップ」も開催しており、優れた取り組みである。

#### <都市環境デザイン工学科>

全教育期間を自然科学系基礎教育（工学基礎）、共通専門基礎教育（専門基礎）、専門応用教育の3段階に分け、それぞれにおいて、適宜、目標を設定して合理的に取り組み、JABEE（日本技術者教育認定機構）により認定されている。

初年次教育として導入ゼミナールや現地見学等を導入し、公務員就職のためのガイダンスなどを通じてキャリア形成の相談が行える体制となっており、評価に値する。

最新の海外事情やプレゼンテーションの仕方などが学べる基礎科目と、工業英語、工業英語実習の科目を設けて、実践に役立つための英語教育を行い、工業英語では試験科目として工業英検3級、4級を取り入れており、評価できる。

#### <システムデザイン学科>

特記すべき取り組みとして、製品企画から設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習する科目である「プロジェクト実習・制作2」、本格的な製品企画を行う「フィールドワーク」とその企画を実際の形にする「応用プロジェクト研究」を開講している。また、卒業研究・卒業制作に至るまで、年次毎に教育プログラムを設定し、段階的に学習できる教育課程・教育内容は評価に値する。

初年次教育として導入ゼミナールを配置し、高学年次で専門的に学習する価値提案型のシステムデザインを初年次から体験的に学習できるようにしている。キャリア教育として実務で活躍する社会人による特別講演会を開催している。

理工学学部で唯一、グローバル人材育成事業の一環として全学的に導入している英語強化プログラム（ERP:English Reinforcement Project）のコースを設置していることは高く評価される。

## 5 教育方法

### 5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

デザイン工学部では、入学時および進級時にガイダンスを行い、体系的な履修を行うよう指導し、資格認定のための複雑な履修計画を支援している。学科別では、建築学科では進級・卒業要件ならびに取得要件を満たすためのシミュレーションが容易に行えるようにしている。都市環境デザイン工学科では資格認定のための複雑な履修計画を指導するとともに、達成度評価システムに組み込まれた資格取得要件判定機能により、個々の学生の履修状況に応じた確認を行い、次期履修計画に反映させるように適切に指導している。また、システムデザイン学科では学生が自身の志望や適性を踏まえた履修計画を自身で立案できるよう適切に支援している。学科の特性に応じたこれらの取り組みは適切であり、評価できる。

学生の学生指導に当たっては、シラバスに必要事項を明記し、全教員がオフィスアワーを設定して履修の手引きおよび各教員室の扉に明示している。TAによる学習指導も組み入れており、適切に対応している。都市環境デザイン工学科のエチュードを活用した指導は特徴的であり、システムデザイン学科の学年担当教員による指導は適切である。

デザイン工学部では、学生の学習時間を確保するため、年間履修制限49単位を設けている。学科ごとの取り組みとして、建築学科でIAE（Integrated Archive Environment）サーバーを立ち上げ、科目の成果物を記録し、予習・復習の促進を図っている点は、評価できる。都市環境デザイン工学科で、独自に学習保証時間を設定し、卒業研究には270時間、合計では1600時間を学習保証時間として定めている点は独創的である。システムデザイン学科で授業支援システムの活用や、演習・実習系の授業時間外で学習場所を解放するなどの配慮は適切である。

新たな授業形態の導入については、建築学科でHAL（Hosei Active Learning）スタジオを活用し、都市環境デザイン工学科でもものづくり科目におけるアクティブラーニングやPBLの概念を取り入れた授業を実施し、システムデザイン学科で各分野横断的実習授業やフィールドワークを展開しており、評価できる。

### 5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

デザイン工学部では、シラバスの作成は授業担当教員の裁量に任されているが、年度ごとに執行部がシラバスを検証している。

授業がシラバスに沿って行われているかの検証は、各学科とも、講義・実習後に教員相互での検証を実施している。授業支援システムやIAEサーバーも活用している。

### 5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

デザイン工学部では、成績評価と単位認定の適切性の確認について、成績評価に疑義がある場合に調査依頼を提出する仕組みを設けるなど、取り組みは妥当である。

各学科とも、シラバス、授業ガイダンス、外部評価機構などを活用して成績評価基準を学生に明示しており、問題はない。

<p>他大学等における既修得単位の認定について、運営委員会および教授会に審議する仕組みを設けている点は適切である。</p> <p>厳格な成績評価を行うための方策について、建築学科がIAEサーバーを活用し、シラバスに明記された成績評価の方法に整合する成績評価を行っている点は適切である。</p>
<p>5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p>教育成果の定期的な検証については、都市環境デザイン工学科が学科内に学習・教育プログラムに関する組織・ネットワークを形成し授業改善アンケート結果や教育評議委員会などの意見をまとめた結果を参考に行っている点が評価できる。</p> <p>学生による授業改善アンケート結果の組織的利用について、各学科とも教室会議や年度末の打ち合わせ会にて、アンケートのフィードバック内容を参照している点は、妥当である。都市環境デザイン工学科で学科独自の授業改善アンケート結果に基づき優秀授業賞を定め、授業改善のための予算を支給する仕組みとしている点は、授業改善アンケートの活用方法として注目に値する。</p>
<p><b>6 成果</b></p>
<p>6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p> <p>学生の学習成果を測定に関し、建築学科で、学習・教育到達目標の達成度を評価するシステム(CARESS履修支援システム)を構築・提供している点、都市環境デザイン工学科で学習・教育目標の達成度を評価するシステムを構築して、学期末に学生自身で確認するよう指導するとともに、全教員に情報を開示し、履修状況やGPA、資格要件の達成度も確認できるようにしている点、システムデザイン学科で就職状況や学内外の各種デザインコンペティションの受賞状況、履修計画立案・達成度評価支援システム(SDR)を導入して学生の志望や志向、履修状況の履歴等を確認できるようにしている点は、大変優れている。</p> <p>成績分布、試験放棄(登録と受験の差)、進級などの状況は、学期末には採点結果報告書を作成するなど、教室会議を活用した適切な取り組みが行われている。</p> <p>学習成果の可視化について、建築学科が作品集、論文集を刊行やIAEサーバーのRFC機能により、学生による研究成果や作品の発信を図っている点は、適切である。演習系の科目では、学内に展示している点が評価できる。都市環境デザイン工学科においても、達成度評価システムというソフト開発を行い、適切に取り組まれている。システムデザイン学科では、2013年度導入の履修計画立案・達成度評価支援システム(SDR)を導入し、現在は1・2年次の学生が利用しており、2016年度には4年次学生まで利用できるようになる。</p> <p>成績不振者への対応については、教室会議での報告、個々の教員による面談の機会を設ける、など適切に対処されている。</p>
<p>6.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。</p> <p>デザイン工学部では、運営委員会および教授会において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、取り組みは妥当である。</p> <p>各学科とも、就職担当教員を定め就職・進学情報を収集・管理している。その内容は教室会議などで報告され、適切に取り組まれている。</p>
<p><b>7 学生の受け入れ</b></p>
<p>7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p>デザイン工学部では、求める学生像を「工学的な基礎学力に加えて、自然や環境、歴史や文化とのかかわり合いを大切に考え、豊かな感性を備えた、倫理観、積極性のある学生」と定め、学科ごとに修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定している。</p>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>入学定員の管理については、入学センターと連携し、適切に対応している。認証評価での努力課題に付された建築学科の入学定員超過に関しては、2016年度に大学基準協会に改善状況報告書を提出する必要があることもあり、引き続き、厳格な定員管理に努めることがのぞまれる。</p>
<p>7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的な検証を行っているか。</p> <p>デザイン工学部全学の方針に基づき、様々な方式による入学試験を実施して、多種多様な学生の確保に努力している。一般入試、指定校推薦入試などの、入試形態に応じた結果の検証は、適切に実施されている。</p>
<p><b>8 管理運営</b></p>
<p>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</p> <p>デザイン工学部では、教授会規程において学部執行部の構成、役割分担が明確にされている。また、学部の運営は運営委員会(執行部+各学科主任)と教授会を中心に行われている。それらの運営は「法政大学デザイン工学部教授会規定内規」および「法政大学デザイン工学部運営委員会規定」に従って行われ、対応は適切である。</p>

<b>9 内部質保証</b>
9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。
デザイン工学部では、2012度から質保証委員会を立ち上げ、年4回の委員会を開催し、教授会で報告を行い、その取り組みは継続され、将来的な改善策についても検討されており、取り組みは妥当である。 専任教員から1名（計3名）と各大学院専攻主任3名の計6名で構成される質保証委員会が適切に運営されている。
<b>学生支援【任意項目】</b>
学生への生活支援は適切に行われているか。
学生の生活相談は、少人数クラスやオフィスアワーを活用した学生相談が実施され、適切な取り組みが行われている。 各種ハラスメントの防止の取り組みとしては、パンフレットの配布と、教授会での教員への注意喚起が、具体的な方策である。
<b>教育研究等環境【任意項目】</b>
図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
学部固有の図書スペースは十分確保されているとはいいがたいが、大学のシステムを十分に活用している点は、妥当である。
教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
教育技術嘱託、ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）などの技術スタッフの役割を明確にし、事務部と連携して適切に整備されている。 教育・研究スペースの確保については、執行部で改善策を検討しており、組織的に対応している。
研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。
科学研究費助成事業などの競争的補助金の取得者に対して、研究倫理についての聴講が義務付けられており、大学の倫理規定を周知する取り組みがあり、妥当である。
<b>社会連携・社会貢献【任意項目】</b>
教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動については、「エコ地域デザイン研究所」と協力して、公開講座などを実施し、多くの教員が公開講座、セミナーを実施するほか、学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めるなど、取り組みは妥当である。また、学外組織と共同研究、受託・寄付研究等を行い、適切に取り組んでいる。地域企業、住民と連携したワークショップの開催を通じて交流を行い、海外交流プログラムを活用して、適切な取り組みが実施されている。
<b>その他法令等の遵守状況</b>
特になし
<b>2014年度目標の達成状況に関する所見</b>
教育課程・教育内容については、2011年度のカリキュラム改革の評価、見直しと完全セメスター制導の可否について達成状況を検討している。前者については、現状の分析を科目毎に実施し、さらに小改革を加えた点が評価できる。後者については、クォーター制とセメスター制とが混合している現状に対し、クォーター制の利点・効果をさらに検討するという課題が残っている。 教育方法については、学部の教育内容に適した教育方法と、それを実践するために必要な施設設備や情報システムの再検討、教育学習環境の改善の達成状況を検討している。実験室・演習室の不足、図書室の不足、食堂スペース・メニューの不足、校舎の分散による影響など、多項目にわたり現状の窮状を把握したことは評価できる。今後の課題として学習環境のより具体的な改善策を提案し、各年度で可能な改善を積み重ねる必要がある。以上のように達成目標は適切に把握されていた。 成果については、学生の学習成果の可視化の目的で達成度評価システムを用いて推進し、履修指導・進路指導に活用する仕組みについて達成状況を検討している。各学科の達成度評価システムは、目標とする50%以上の利用率が得られ、目標が達成できている。しかし、蓄積されたデータを履修指導や進路指導に活用する仕組みは今後の課題として残り、達成されていない。また、学習成果の可視化の目的で構築された達成度評価システムを学部共通のシステムに移行させることが今後の課題である。
<b>2015年度中期・年度目標に関する所見</b>
教育課程・教育内容については、2011年度のカリキュラム改革の評価、見直しと完全セメスター制導の可否について達成状況を検討している。前者については、学部共通科目の位置づけや開講期・曜日・時限について学科間で調整することを目標としている。後者については、進級要件見直しや留学期間中の単位認定基準を整理し、春学期開講の卒業論文・卒業設計の評価方法を検討することを目標としている。また、クォーター制とセメスター制とが混在している現状に対し、クォーター制の利点・効果をさらに検討する。これらの取り組みは、これまでの検討内容を踏まえており適切である。

教育方法については、学部教育内容に適した教育方法と、それを実践するために必要な施設設備や情報システムの再検討、教育学習環境の改善を中間目標とし、現在の施設とその利用方法・状況を調査・整理することを年度目標としている。このような達成目標は昨年来同様であるため、有意な改善がみられるか、今後の重要な検討材料となる。

成果については、学生の学習成果の可視化の目的で達成度評価システムを用いて推進し、履修指導・進路指導に活用する仕組みについて達成状況を検討している。各学科の達成度評価システムの項目を比較検討し、望ましい達成度評価システムを構成する項目を整理することを年度目標としている。昨年までの所見を補足し、具体的な目標を掲げている点は評価できる。

#### 認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

デザイン工学部では、2012年度に行われた認証評価において、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率および収容定員に対する在籍学生数比率について改善が望まれると指摘された点に対し、2013年度に文科省定員を増員し、また学部内で継続して対応を行っている。これによる改善状況を示す具体的なデータ・根拠が明確に示されており、問題はない。引き続き継続的で一層厳格な定員管理が求められる。

#### 総評

横断的な知識の融合により、多面的な観点から物事を検討し、公正な価値観を持った、創造性豊かな人材の育成を学習・教育目標とする学部の理念に応じて、各専門分野を担う学科において、適切な対応が行えるように規定を設け、将来的な課題も含めて検討されている。

全体として、デザイン工学部は他の学部には見られない独創的な仕組みや取り組みが行われていることは高く評価できる。たとえば、学部としては、理工系では唯一の英語強化プログラム、達成度評価支援システムの活用、また各学科についても、建築学科では『アーキテクトマインド』の作成と配布、「国際ワークショップ」の開催、都市環境デザイン工学科では優秀授業賞、授業改善に役立てることを目的として授業のビデオ撮影による自己点検、学習保証時間の設定、システムデザイン学科では学部と大学院教育との連携、各分野横断的な実習授業等々、数々の優れた試みが展開されている。

「工学」と「美学」の融合により、時代に先駆けて、新しい文化を創造する「総合デザイン（ホリスティックデザイン）」の教育と研究を推進する理工系学部として、ますますの発展を期待したい。